京都・鳥羽離宮跡

1　所在地　一　京都市伏見区中島堀端町、二　伏見区内畑町

2　調査期間　一　一九八九年（平1）一二月～一九九〇年四月、二　一九九〇年三月～一九九一年一月

3　発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所

4　調査担当者　一　磯部　勝・鈴木久男、二　鈴木久男

5　遺跡の種類　離宮跡

6　遺跡の年代　一　弥生時代～鎌倉時代、二　平安時代後期～鎌倉時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

（京都西南部・京都東南部）

一　第一三五次調査

調査地は、鳥羽離宮推定地内でも南限に近いと考えられている地域である。この周辺部の発掘調査は、第一次調査・第一三次調査についで三例目であるが、過去の調査では鳥羽離宮に関係する遺構や遺物はほとんど検出されていなかった。今回、土地区画整理に伴う工業用地において発掘調査を実施した。調査面積は約一六四〇㎡である。

検出した遺構は、弥生時代から鎌倉時代にまでわたるが、遺構密度は低い。しかし、下層では弥生時代から古墳時代にかけての溝や古墳時代の竪穴住居・柵列などを検出し、湿潤な土地ではあるが古くから人々が生活を営んでいたことが明らかとなった。上層では、今回初めて鳥羽離宮に併行した時期の溝を検出した。この他の遺構は離宮廃絶後の流路だけである。木簡が出土したのは、鳥羽離宮併行期の溝ＳＤ一からである。

ＳＤ一は北東から南西に流れる大規模な溝で、幅約六ｍ、深さ約一・五ｍである。両岸は素掘りのままで、護岸施設は認められない。深くまっすぐにのびており、人工的な運河の可能性がある。埋土は自然堆積によるが、大きく四層に分かれる。木簡は下層の灰色砂泥層から出土した。土器や木製品・帯金具・人骨など多数の共伴遺物がある。

二　広域下水道工事に伴う立会調査

木簡が出土した遺構は、東殿跡西端部を東西に流れる溝跡で、幅は約四ｍ、深さは一ｍ前後である。木簡は、溝内に堆積した腐植土中から出土した。共伴遺物として、平安時代後期から鎌倉時代にかけての土器や木製品がある。

8　木簡の釈文・内容

一　第一三五次調査

(1)　・「〈南无帰依佛　南无帰依法　南无帰依僧
　　・「〈建仁三四十八得阿弥陀佛　(217)×25×2　061

(2)　・×みたふつなもあみたふつ
　　×みたふつなもあみたふつ」
　　・×つなもあみたふつ
　　なもあみたふつ　」　(141)×16×2　061

(3)　「〈なむあ見太□□　(98)×11×1　061

(4)　「〈南無□　(67)×22×3　061

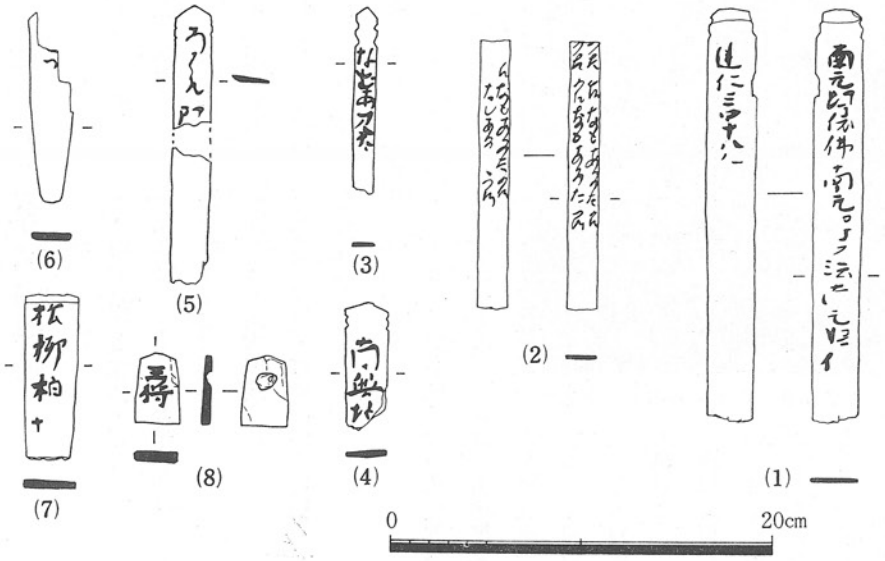
(5)　「〈南无阿×　…　(63+71)×19×2　061

(6)　□つ」　(100)×23×4　061

(7)　松柳柏□　(87)×28×4　081

(8)　「王将」　37×23×5　061

木簡は八点出土している。(1)〜(6)は名号を書き込んだ供養札である。(1)、(3)〜(5)は頭部を山形に削り、切り込みを二カ所に入れて卒塔婆形にする。四〇〜六〇代の男性二人、女性一人の人骨が伴出し



ており、水葬に伴う供養に使用されたと考えられる。(7)は用途不明であるが、樹木の名称を書き並べている。(8)は将棋の駒である。

これらの木簡のうち、(1)には供養した年月日が記されており注目できる。供養札の出土地点は人骨からあまり離れておらず、水の流れがかなり緩やかだったことを示している。このことから同一層から共伴した遺物は同時期性が高く、良好な一括資料になっている。この人骨や供養札の周辺からは、土師器皿や瓦器皿・瓦器椀などの多量の土器類、木沓や漆塗りの椀などの木製品、黒漆を表面に塗った銅製帯金具（丸鞆）などが出土している。特に瓦器椀は、楠葉型の瓦器椀がほとんどであるが、それらに混じって和泉型の椀が少量みられる。(1)の供養札から、建仁三年（一二〇三）四月一八日、というこれらの遺物の実年代を明確に知ることができる。

二　広域下水道工事に伴う立会調査

(1)　「〈南□〔無カ〕阿み□〔たカ〕仏　　○」　　159×22×2　061

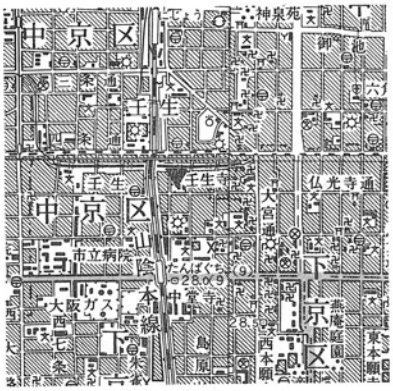
名号を記した供養札である。頭部を山形に削り、両側から四カ所に切り込みをいれて卒塔婆形にする。もう一端は徐々に細く削り、端部に穿孔を施している。

（一　網　伸也、二　鈴木久男、網　伸也）

京都・壬生寺境内遺跡

1　所在地　京都市中京区壬生梛ノ宮町
2　調査期間　一九九〇年（平2）七月～九月
3　発掘機関　㈶元興寺文化財研究所
4　調査担当者　藤澤典彦・岡本広義
5　遺跡の種類　都城跡、寺院・町屋に伴う遺構
6　遺跡の年代　平安時代～近代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

壬生寺境内遺跡は京都市のほぼ中央、大念仏狂言（壬生狂言）で有名な壬生寺の境内西側に位置する。平安京の条坊復原でいうところの左京五条一坊二町に相当する。今回の発掘調査は、壬生寺の庫裡及び老人ホーム建設に伴って実施した。



（京都西北・東北・西南・東南部）

検出遺構は平安京と壬生寺・町屋に関するものに大別できる。平安京関係の遺構は、朱雀大路路面痕跡とその東側溝などである（京